

相互助け合い事務にまで手がまわりにくいことや、家事サービス利用に際してあらかじめ部屋の掃除が必要と考えて助けを求めることを躊躇しがちであることなどが考えられる。

そこで、須磨区老連友愛・奉仕活動推進部では、各クラブ内で本事業について理解を深め話し合いをしておらおうと、拡大すればポスターになるカラー4色刷りのA4判チラシ（前頁写真参照）を制作するとともに、昨年8月24日には花谷地域福祉センターに15クラブ21人が集い研修会を開催した。

研修会では、従来の友愛・奉仕事業とは別に新たに「助け合い事業」が制度化されたこと、各クラブにおいてはコーデイネーターと推進員を配置し、市老連に登録の必要があることについて、改めて理解と協力を求めた。

研修会終了後には、全会員にチラシを配布したクラブや、老人クラブでスタートさせ実績を重ねて自治会に取組みを働きかけて、広域で本事業を展開したいと考えているクラブなどから、報告があった。

また、11月14日には横尾集会所で、セミナーを開催した。セミナーでは須磨社会福祉協議会の木村裕行さんの「日常生活の困りごとの助け合い」についての講演後、北区、垂水区の各老人クラブの助け合い事業取組みについての発表と意見交換を行った。

（須磨区老連だより）2021年1月号

第Ⅲ部

「いいから！」



パソコン教室

葉桜期

葉桜の季節のウオーキングは毛虫の幼虫への注意が必要だ。

体長は3、4センチ、くすんだ緑色で背に黄色の線があり、桜や梅の木などに細かい糸を垂らしてミノムシのようにぶら下がっている。成虫はオビカレハという蛾になる。

ぶら下がっている幼虫を見つけると、体を左右にするりとかわして衝突を避けて歩くように心掛けている。

4月下旬に、春と秋の数日間のみ一般公開される太山寺の安養院庭園見物に出かけた。自宅から神戸総合運動公園を経て太山寺までは、徒歩で片道1時間。途中の路上に幼虫数匹が踏みつぶされていた。寺へ行くのに殺生は避けたいので、この日は木々の傍では前方に特に目をこらして歩いたつもりだった。それが、安養院に着いて、門前で脱いだ帽子には幼虫1匹がしっかりとくっついていた。
(2014年5月)

須磨で石炭採掘

須磨ニュータウンに住み始めて30年余りになる。

今年2月の須磨区歴史講演会で、板宿の百耕資料館主任研究員から興味深い話を聞いた。幕末に妙法寺村と車村で石炭を採掘していたという。

5月上旬に春季企画展開催の同館を訪ねた。当時、幕府は外国軍艦の来訪活発化に対処する蒸気船造りを進め、その燃料確保のため妙法寺村字清水谷、竹向と車村道谷で石炭掘削を行い、輸送用道路への接続道も敷設した。1日に150人の坑夫が働き、3万斤（1斤は約600グラム）の石炭が採掘されていたという。

明治16年の妙法寺、車の村民があわせて600人足らずだったから、約150年前にニュータウンの東に隣接する地域でこれほど大規模な石炭採掘が行われていたことに、ただ驚くばかりだった。
(「花時計」2014年5月)

懐かしい市電

6月上旬、「神戸交通史写真パネル展」初日に、長田区の神戸アーカイブ写真館に出かけた。同館は、6年前に約80年の歴史に幕をおろした旧双葉小学校をリニューアルした市立地域人材支援センター3階にある。特に見たかったのは、かつて市内を走っていた市電山手線、栄町線、税関線など14路線のギャラリー写真展示だ。

昭和44年、社会人1年生のころの勤務先周辺の建物は今、別の建物になっている。上司の入院を見舞った中央市民病院は確かに布引にあった。脇浜線の女性車掌はトラムガールとの写真説明があった。忘れていた当時の記憶がよみがえり、知らなかったことにも気づいた。

またたく間に予定の1時間が過ぎ、隣の講堂での私鉄、国鉄など交通機関の展示は小走りでの見学になった。
(「花時計」2014年6月)

夏のコンサート

トーンチャイム、ハワイアン演奏とフラダンス、ポピュラーソロと続いた文化センター6月中旬開催「夏のコンサート」最後の「みんなで歌いましょう」コーナーでのこと。

須磨音楽協会の女性司会者は、2曲を全員で歌い終わると、観客約150人を椅子から立たせ右腕、左腕、両腕の順で真上に挙げさせ背筋を伸ばして座らせた。

4曲目「憧れのハワイ航路」では「戦後間もないころに美声の岡晴夫が歌ってはやった」と紹介し、「えっ、知らないの」と突っ込みを入れ、合唱を終えると「良く知っているじゃないの」と笑わせた。

終わりに「1、2曲目は『こんなに小さな声か』と思ったが、3曲目からはよく声が出て驚いた」と感想を述べた。この言葉に気分を良くしたのは私だけではなかっただろう。

観客をリラックスさせ声が出せるように巧みに誘導して歌わせた。帰路は足取りも軽やかだった。

(2014年6月)

蓮酒

7月21日に垂水区の転法輪寺の蓮祭りに出かけた。7月上旬には蕾が結構多かったが、この日は小さな池一面を覆うように薄紅色の蓮の花が咲いていた。

祭りは弁財天を祀る池の中ほどの堂の正面前での読経で始まり、住職が「蓮酒は象鼻杯と呼ばれて中国から伝わり、無病息災の効用があるとされている」と解説した。

寺の総代が鐘楼に立って直径20センチくらいの蓮の葉に酒を注ぐ。そこから下へ垂らされた茎の先を鐘楼下で口にあてて飲む。直径1センチ余の茎の10ほどの大小の穴を伝って酒が流れ落ちてきて口に入る。少し吸い込むと、かすかに蓮の香りがした。

蓮の葉を斜めにして口で受けるようにして飲むのは難しいと思っていたので、「なるほど、こんなふうにして飲むのか」と感心した。

(「花時計」2014年8月)

土用の丑の日

昨年12月に夫人を急に亡くした80代半ばの男性が、諸手続きに地域の人たちに世話になったと、ウナギをご馳走してくれた。厚みたっぷりパリッと焼いたウナギに、たれがからみ、固めに炊いたご飯、肝吸いと相性も抜群のおいしさだった。

北海道、岡山を経て神戸に住むまでの暮らしを、一言一言噛みしめるように語り始めた。毎日話していた夫人が食卓にいない寂しさももらした。視線が次第に下がり、地域の人も合わせるように下を向いた。

誰かが頭を上げて「元氣出しゃ」と言った。「そうや、家に一人でおらん方がええで」「カラオケにおいでよ」「卓球もええよ」と口々に励ました。

土用の丑の日に開け放たれた窓からさわやかな風が吹き抜けた。

(2014年8月)

防災訓練

須磨21地区の防災福祉コミュニティが集う防災訓練に先日初めて参加した。

各コミュニティの8人が消火、救護、救助班に分かれて活動し、その後、車椅子、簡易担架、徒歩の隊列を組んで避難場所へ行く。救助班の私の役割は、水難救助をイメージして、大きなカエルの人形を乗せたタイヤにロープを結び、ロープを13^足離れた手元に手繰り寄せて人形を救助することだ。

しかし、事前に学んだ巻き吊り結びにとられ、タイヤにロープを結ぶや否や短距離でロープを引っ張っていた。消防署員に「ロープをもっと伸ばして」と指導を受けて、やり直しになった。

水難救助のことが頭から欠落していた。3人が並んでの訓練とはいえ競争ではないのにと、せっかちな行動を猛省している。

〔花時計〕2014年11月

ハンモック

ネットを広げて尻から体に乗せ、体勢を整えて両足、上半身の順に全身をゆっくり伸ばして空を見上げた。森の木々の間から澄み切った秋空がぞいた。風はほとんどない。耳をすますと鳥のさえずりが聞こえた。何十年ぶりかに乗ったハンモックは解放感いっぱい、少し揺らすとさらに心地よかった。

ハンモックは3張あって、須磨区の森林ボランティア「よこおみち森もりの会」が設置したもの。同会が横尾山山腹約2000平方^{メートル}の斜面いっぱいには植栽をした兵庫県花のじぎく群落がちょうど満開で甘い香りを漂わせる。

隣のハンモックに乗った家族連れの母親と姉が口々に「らくちん、らくちん。これええなあ、家に欲しいなあ」と言い、笑い声が森に響いた。

〔2014年11月〕

バレンタインデー

ボランティア先で知人が「バレンタインおめでとう。どうぞ」と、しゃれた紙袋を差し出した。すぐにチョコレートと分かった。

すぐに、前夜の妻からかけられた「お父さんはプレゼントをもらえないだろうから、私が買ってきてあげる」の言葉が頭を駆けめぐり、思わず「いやー。とても受け取れない」と口走ってしまった。

ほんのわずかだったが微妙な沈黙。「しまった。何を言うてるんや」と思い、非礼を詫^わびて「ありがとう」と受け取った。箱入りの高級なチョコレートだった。

「お父さんはあかんね。糖質を制限しているし、私が買ってきたのを少しだけ食べればええのやから」と妻がからかう。負けずに「いや、おいしくいただいて感想を言わんといかんやろ」と言い返した。

〔花時計〕2015年2月

妊婦疑似体験

今年の須磨区防災福祉大会は、これまでの防災訓練のほか、高齢者と妊婦それぞれの疑似体験と車椅子体験が加えられた。

高齢者体験は、両肘、両膝、両足首の関節を動きにくくする器具を着けて、砂袋3キロをベストに入れ、緑内障体験眼鏡をかけて階段やスロープを歩行する。また、妊婦体験は8、9キロの袋を腹に巻き付ける。

高齢者体験の男子中学生は「緑内障は視野が狭いうえ、体が動きにくいので杖を持たないと歩きにくい」と驚いた。妊婦体験をした夫は、妻と子どもに「こんなに重いのか」と話しかけた。男性スタッフの「体験しないとわからないな」の言葉に、周囲の全員がうなずいた。

(2015年10月)

一足早く

婦人が大きな紙箱を空けた。中に入っているのは赤、青、黄色のボール、銀色の星、リボン、モール、イルミネーション電球などで飾られた大きなクリスマスツリーだ。

今春、一人暮らし婦人から「孫が成人を迎えたので施設などに寄贈したい」と相談があった。

2年間サンタクロースを務めた児童館に問い合わせると、「ぜひ欲しい」と大喜び。11月上旬

に職員と2人で自宅を訪ねた。婦人は「ツリーが入っていた薄茶色の紙箱は、購入時のままでは味気ないので化粧紙を貼った」という。

児童館に「一足早いプレゼントですね。今年のクリスマス会には婦人を招待してあげては」と提案した。

いつもの年にも増して賑やかなクリスマス会になりそうだ。

(2015年11月)

地域デビュー

リタイアした2年前の春から、何をよりどころに生活するか模索し始めた。

わが町は須磨区北部に位置し、昭和30年代後半から開発されたニュータウン。

須磨ニュータウンの大地を踏みしめ景色を五感で確かめて歴史や文化を探ろうと、1日2、3時間、週に3、4日ひたすら歩いた。

北は太山寺、布施畑、東は車大歳神社、慶雲寺、しあわせの村、南は高取山、長田神社、須磨寺。

西は転法輪寺、学園都市の高塚山、県立大学あたりまで足を延ばした。

六甲山系の西端に位置する須磨の南部は鉢伏山・鉄拐山が海に迫り、奈良、平安時代より古歌に詠まれた源平ゆかりの史跡も残る。

また、北部にも妙法寺、萩の寺、かつて皇室にヤマモモを献上した素戔嗚神社のほか、雄高座、雌高座という夫婦岩を抱える高御座山がある。大阪湾、淡路島、明石海峡大橋、播磨

灘を一望できるビューポイントも数箇所ある。

竹林や横尾山山腹の「のじぎくの丘」整備に取組む森林ボランティア・グループや市民花壇コンクール入賞団体などの活動も知った。

模索し続け、おとしの年の瀬によく目標が見えてきた。

ふれまち協議会の活動だ。

健康体操、パソコン教室、映画会、里山ウォーク、一人暮らし高齢者への食事会、おしゃべりの会、クリーン作戦の実施、トライやる・ウィークの支援、さらには小学1年生対象の昔遊び、3年生への昔の暮らしの話、6年生へは防災訓練の指導、夏祭りなどの開催とメニューは多彩だ。

昔の暮らしの授業では、「写真を教室後方へも手を伸ばして見せてくれたのでよくわかった」との礼状が児童から届いた。

児童館のクリスマススマスの催しではサンタクロースに扮した。プレゼント袋を肩に担ぎ、片手をあげて「メリークリスマス！」と会場に入ると歓声があがった。

心が通じ合ったと温かい気持ちになった。

活動の主拠点は市立地域福祉センターである。その整備は県民交流広場事業の助成を受けている。

活動メンバーの大半は女性だ。たとえば食事会では、料



ふれあい食事会



ふれあい喫茶（抹茶ケーキと紅茶）

理づくりはもっぱら女性で、男性は会場設営、誕生日の人に贈る花束購入のほか、受付、配膳、写真撮影、食後のコーヒづくりなどである。

昨年12月には民生委員・児童委員に委嘱された。校区の民児協メンバー12人のうち男性は私だけ（2019年12月現在3人）。だが、気負わずに取り組みたい。

ふるさとづくりに参画するこれらの活動は、地域での居場所になる。

いわゆる「夫原病」の防止にもなる。

男性諸氏の地域デビューをお勧めする。

〔絆〕2014年6月号

須磨再発見(1)

今年の神戸の名勝地・史跡を歩くは、好評だった昨年の垂水区に続き、須磨区をNPO法人須磨歴史倶楽部会員による案内、解説で2回に分けて実施。

その第1回は9月27日10時、JR須磨駅前に15人が集合。絶好のウォーク日。

コースは国道2号線沿いの村上帝社を皮切りに、関守稲荷神社、現光寺、綱敷天満宮、智慧の道、重衡とらわれの松を経て須磨寺まで。

案内のNさんは県開設のふるさとひょうご創生塾の卒業生で、和歌や俳句にも詳しく、芭蕉や蕪村の句などの紹介を交えてのガイドは秀逸だった。とりわけ、寿永3（1184）年一ノ谷合戦の際、源氏の熊谷直実と、海上に馬を乗り入れ沖へ逃がれようとする平敦盛との合戦を再現した「源平の庭」での案内や、「青葉の笛」碑のキーボードで合唱を促すガイドには、皆で拍手を送った。

須磨の歴史について概括的には知ったつもりでいたが、この日の専門家による案内で須磨再発見の2時間だった。

この日初めて会う会員もいたが、そこはお互いに元県職員ですぐに会話を交わした。ゆっくり歩いて体力をリフレッシュさせ、歴史の知識で頭を活性化させることもできた。

（県友会ホームページ 2016年10月）

須磨再発見(2)

11月15日、NPO法人須磨歴史倶楽部のNさんの案内で第2回須磨区歴史探訪を行った。

山陽電鉄（以下、山電）月見山駅前に19人が集合。早朝まで降った雨が上がり絶好のウォーク日和。路面にマークされたバラを頼りに北へ進むと10分ほどで須磨離宮公園に到着。正門から馬車道を進むと可憐な県花のじぎくが出迎え、さらに進むと左に五十嵐播水の「初空や 帯のごとくに 離宮道」の句碑。

中門広場を進み、門の南には海を望む潮見台がある。噴水傘亭、月見台、隧道を抜け坂道を

下り連絡橋を渡ると目前に紅葉が広がり、ショウガレザクラが咲いていた。和庭園へ。岡崎邸のあったところで、山崎豊子原作テレビドラマ「白い巨塔」のロケ地。美智子妃にちなんだバラなどをながめた。

離宮公園を辞して、手入れの行き届いた松が連なる離宮道を南下し、山電踏切手前にある「松風村雨堂」へ。さらに南下し、松林の広がる海沿いに旧住友邸の門が残る。ここで歴史倶楽部の理事長が合流。西のシール須磨の南にある旧和田岬灯台（赤灯台）を見学。有志の昼食時に理事長から住友家などの別荘写真について持参のパソコンで説明を受けた。

（県友会ホームページ 2016年11月）

富有柿

団地専用庭で育てた富有柿が今年も実をつけた。100個以上だ。知り合いへのお礼にもぎたての柿を届けると「スーパーのものよりおいしい」と喜ばれた。

田舎で借家暮らしをしていた幼いころ、近所の子どもに「お前の家には柿の木がない」と言われ悔し涙を流した。亡くなった弟が「お兄ちゃんが泣かされた」と母に伝えた。

その数年後、姫路に住んでいた小学生のころ、田舎の伯父が「柿狩りに来い」と招いてくれた。竹竿の先を割って木枝を挟んで柿を採った。初めのうちは楽しかったが、柿の木を見上げ採り続けていると次第に首と腕が疲れてくる。途中でやめたかったが、伯父は「遠慮しなくていい。もつと採れ」と促すので懸命に採り続けた。

柿の好みは、今も子どもころと変わらない。熟して軟らかいものより、ざくつと歯ごたえのある硬めが好物だ。
〔花時計〕2016年11月

* 小さな柿の木が今年は100個を超える実をつけた。パソコン指導のお礼にもぎたての柿を届けると「おいしい」と喜ばれた。嬉しくなって柿の木を眺めていると、亡くなった弟、母や伯父のことを思い出した。

言葉ひとつで

ソフトクリームを食べ終えて、ゴミ箱が見当たらないのでコーンカップの包み紙を指先に持ったまま、みやげ物店内を物色中のこと。

店員が「包み紙を捨てておきましょうか」とさりげなく言う。よく気がつく、この店で数品を買った。

その日の午後、ハンバーガー専門レストランで店員に「持ち帰りできますか」と尋ねると、「自己判断です」の答え。撫然として、牛ステーキに玉ねぎを乗せたバーガーの出来上りを待つ。

受け取ってたれがもれないように手持ちのビニール袋に包んでいると、厨房から「お持ち帰りですか」の声。

うなずくと、厨房から出てきて丁寧に包み直して「なるべく早く食べてくださいね」と手渡し。とっておきの笑顔で礼を言った。
(2016年11月)

* 11月20日に団地自治会バス旅行で淡路島に出かけた。包み紙は、最初に訪れた淡路花さじきのみやげ物店でのこと。ハンバーガーは、最後に訪ねた施設を出発する間際に、淡路に来たのだから夕食用にと、レストランで購入した折のことだ。

遺品整理

亡くなってまもなく1年になるからと、知人は夫人の遺品の整理を始めた。靴は七、八十足もあった。何千足もの靴を持っていたフィリップピン大統領元夫人のように思えて「俺の靴は10足ほどののに、お前はイメルダか」と、一人で突っ込みを入れた。

さらに整理を進めると、男物のシャツ、帽子と靴を入れた袋と箱があつて、夫あての誕生祝いのメッセージが添えられていた。これを見つけた知人は、妻はずっと体調が悪つたのと思つて涙が止まらなかつた。

入退院を繰り返していた夫人だが、亡くなる1か月ほど前に夫のために買い求めていたのだ。地域活動のリーダーを務める知人は、細身でいつもおしゃれだ。それは夫人によるところも大きいことを知った。
(2016年12月)

* 知人は、ふれまち協議会委員長や須磨区老人クラブ連合会副会長などとして活躍していた。夫人も地域で押し花教室などの講師を務めた。

体調を崩した夫人は1年あまり入退院を繰り返し、知人の懸命の看護にもかかわら

昔の暮らし、遊びの指導や下校見守り、中学2年生のトライやる・ウィークの指導、地域福祉センターでの当番、書類作成などである。ポスターは須磨パティオや北須磨文化センターに掲示するとともに、タウン誌掲載を働きかけた。

あなたも地域デビューを...

ボランティアは、「自分自身を豊かにする」素敵な活動！

地域ボランティアで、毎日の生活に彩りをプラス！

「花谷ふれまち」は、あなたのデビューを待っています！

小学生との交流 (昔の遊び / 昔のくらし)

中学生のトライやるサポート

防災訓練のお手伝い (地域防災訓練・小学校防災学習など)

小学校での花づくり

防災・防犯パトロール

落合ぱんだのばんちゃん (赤ちゃん好きな方 大歓迎)

イベントのお手伝い (焼きそば)

下校見守り / 通学路清掃

クリスマスサンタ役

事務所の当番

詳細は、**ふれあい花谷** 検索

お問合せは、☎078-791-1400 ⑧日曜/祝日
花谷ふれあいのまちづくり協議会 (略称: 花谷ふれまち)

地域デビュー呼びかけポスター

このため、リニューアルしたホームページや広報紙などで参加を呼びかけるとともに、求めるボランティアの活動内容と毎土曜日午後の相談対応を明示したポスター(写真参照)を作成した。

活動内容は、地域での防災・防災パトロールやクリーン作戦、小学校での防災訓練、花づくり、

また、須磨区地域活性化アドバイザーによる地域活動促進リーフレット作成に協力し、全戸配布と区ホームページへの掲載を実現させた。

地域活動を持続させるには、後継者育成を含めて人材の継続的な確保が欠かせない。人材確保は単に題目を唱えるだけでは困難であり、シニア層を主なターゲットとして地域デビューを促す新たな手立てを講じる必要がある。当地域では活動を担う8割以上が女性であり、リタイア男性らの目を地域活動に向けてもらうことが欠かせない。

神戸市が小学校区ごとに設置する地域福祉センターでのふれまち協議会活動を機に、民児委員に就任してまもなく、住宅の管理組合役員から「自治会や管理組合の総会で高齢者問題への対応を求める声が出ているが、どう考えるか」と問われ、「地域で暮らすシニア層が健康づくりに共に汗流して、地域に目を向けて助け合う老人クラブが有効だ」と答え、老人クラブを発足させた。

地域活動に携わって6年になる。ふれまち協議会、民生児童委員、老人クラブの活動の日々である。

地域活動の課題

ず翌年の1月に亡くなられた。遺品整理をして見つけた靴の数に驚き、腹をたてたりもして、誕生祝いを見つけた。知人は生前に夫人から誕生祝いのことを聞いていなかった。

これらの取組みの積み重ねで、人びとの関心や認識も高まり、リタイア男性らの地域デビューを促すことを大いに期待している。
(2017年1月)

「いいから！」

正月料理の腹ごなしの初ウオーキング。45分ほどでめざす山頂近くのあずまやに到着した。年上の男性が毎日登山名簿を指さして「名前を書きなさい」と勧める。「自宅からここまで毎日
は来られない」と言うと「いいから！」とやさしく声をかけられた。

山を下りて進むと、公園で餅つきの真つ最中。華奢な女子中学生が杵をよたよたと振り上げるたびに、まわりの人々が「それ」「それ」と励ます。

十数分ながめて去ろうとすると、「もう少しでつきあがるので待って」と。「この地域の者ではない」と固辞するが、ここでも「いいから！食べていきなさい」と勧められた。

よそ者を寛容に受け入れることばに、帰路の足取りは軽かった。(「花時計」2017年1月)

* 1月4日午後のウオーキングは、土池公園から標高134メートルのポンポン山へ。あずま屋には毎日登山の二つのグループ会員名簿が備え付けられている。

友が丘西公園での地域団体主催の餅つきは、世話役十数人と女子中学生ら20人ほどで実施。世話役がついた後、杵を振り上げるのがやっとの女子中学生を周囲の人々が励ましていた。

ベンチ

地下鉄名谷駅周辺は歩行者専用道路が整備されていて安全だが、坂道が多い。

駅から東方の小学校へ通じる市道はまっすぐな登り坂で、道沿いには数百戸の市営住宅がある。増え続ける高齢者らには、買物や通院からの帰路がとりわけつらい。買物袋を坂道に置いて路上に座りこんでいる高齢者を何度か目にした。

「名谷あんしんすこやかセンター」が開催する地域ケア会議で、高齢化が進むニュータウンの住みやすいまちづくりを1年かけて議論。

高齢者が住まい近くで集う場づくり、支えるボランティアを増やす取組みとともに、ふれまち協議会で相談して神戸市にベンチ設置を要望した。そして、このほど市道に一息つける2人掛けベンチがようやく完成した。
(「花時計」2017年5月)

好きな鍋

同じ地域の男性が共に昼食を食べてお互いに顔見知りになればと、あんしんすこやかセンターが月に1日「メンズクラブ」を開催している。

この日の参加者は初めての私を含めて60代から80代までの7人。カレーライスを食べ、「好きな鍋」について順に話す。「しゃぶしゃぶ」「カニ鍋」と出て、私は「子どものころに食べた

鯨肉と水菜のはりはり鍋がおいしかった」と話した。すると「鯨のコロがうまい」の声。「コロって何」「神戸中央市場のあたりでよく食べた」「先日市場祭りがあった」「市場近くで運河祭りもあった」「運河の近くに兵庫大仏がある」「行ったことがない」「日本三大仏やで」。

話がどんどん広がる。気づくと予定時間を30分以上超過していた。(2017年5月)

地域活動への誘い

地域デビューして7年になる。小学校区内の自治会、防災福祉コミュニティ、子育てコミュニティ推進委員会、民生児童委員協議会、青少年育成協議会、小中学校PTA、老人クラブ、ボランティア団体などで構成するふれまち協議会活動に地域の数人から誘われたのがきっかけだ。これを機に民生・児童委員に就き、団地で老人クラブも立ち上げた。

我々のふれまち協議会は、神戸市が各小学校区に設置する地域福祉センターの指定管理者としてホールの使用許可、料金徴収のほか、パソコン・ヨガ・手話教室、健康体操等の開催、子育て支援やトライやる中学生受入れ、神戸大学大学院保健学研究科による健康測定等を行っている。センター外でも、地域クリーン作戦、防災防犯活動、小学校での花づくり、下校見守り、防災訓練を実施し、昔のくらし・遊びを指導するとともに、児童館事業に協力している。

こうした中、在任9年のふれまち協議会委員長が昨年5月に亡くなった。昨年秋季以降、委員長から「後任委員長に就任を」と打診され、「ひょうご県友会神戸支部役員も務めているので」と固辞してきたが、引き受けざるをえなくなった。

地域活動に携わる人びとが加齢とともに気力、体力が衰えることはやむをえない。地域活動を持続させるためには人材確保と後継者育成が欠かせない。

そこで、シニア層の地域デビューを促すために、「知識、経験を活かした活動で『やりがい』や『達成感』が得られる」、「居場所になり、新たな出会いや友だちもできる」と説明し、昨今言われる「フレイル（加齢による身体機能の低下、病気や要介護状態）の防止にもなる」と説得するが、「時間がない」「知識、スキルがない」などとかわされる。「情けは人のためならず」なのだが、ことばを並べるだけでは人材確保が進まない。

地域デビューを促す方策を考えた。「小学校での花づくり」「下校見守り、通学路清掃」「防災訓練の手伝い」「地域福祉センターの当番」といった活動の具体的内容と土曜日午後に相談に応じることを紹介する大判ポスターを作成した。これをリニューアルしたホームページと文化センター、駅前広場の各掲示板に掲出し、全戸配布広報紙にも掲載することにした。これら取組みの積み重ねでリタイア男性らの地域デビューを促したい。(絆)2018年1月号

回想カルタ

児童館の子どもたちとの交流会終了後、小学生の下校見守りに立つ7人のかるた会でのこと。取り札は足踏みミシン、蓄音機、つるべ井戸、天秤、バリカンなど50、60年前の写真で作られていて、その右上に読み札の頭の1文字だけがひらがなで書かれている。取り札の写真を見て「懐かしい」と喜んでいたメンバーだが、始めるや否や頭の5文字を読み上げ終えるまでに

「はい！」と大声を出し競って札を取り合った。最初、取り札を床に並べ座布団に座ってやろうとしたのだが、「腰が痛いから」と札はテーブルに並べ椅子に座って行うように変えた。このようなメンバーが、元気にかかるた会ができるのは日頃の見守り活動への褒美のように思えた。

〔花時計〕 2018年3月

* 小学生の下校見守りは、ふれまち協議会が学校からの協力要請に応じて地域の高年齢者有志に参加を呼びかけ、PTAとともに行っている。地域のメンバーは住まいの近くの下校路に立つので、お互いが顔を会わせることは少ない。

下校見守り者の交流も深めようと、2月3日にかかるた会を行うことにした。この日、男性4人、女性5人が子どもたちとの交流会に集まり、そのうち男性2人、女性5人がかかるた会に参加した。かるたは「回想かるた、あの頃を回想」という高齢者向けのもの。

ぼい捨て禁止

名谷駅周辺は6月からぼい捨て防止重点区域になる。

たばこの吸い殻や空き缶、ペットボトル、チューインガムのかみかすなどのぼい捨てをやめようと、区役所職員とともに地域団体の仲間らと呼びかけた。

4月下旬の平日7時半から8時まで、駅前のバス停前に幟旗のぼりばたを立ててチラシとティッシュペーパーを配った。駅改札に向かう通勤、通学客の進路の斜め前から声をかける。「ご苦労さま」

と受け取ってくれる人もいれば、歩を速めて通り過ぎる人もいた。

クリーン作戦で気づくのは、ぼい捨ての吸い殻が違う日にも同じ場所にあることだ。

日頃から吸い殻のぼい捨てしている人は、キャンペーンチラシを受け取ってくれただろうか。

(2018年4月)

『長田今昔物語』

ひょうご県友会神戸支部では、事業の一つとして市内各区のボランティア・ガイドの協力で各区の名勝地巡りを行っている。

垂水を皮切りに須磨、兵庫とまわり、今年は長田のまち歩きガイドについて区役所に問い合わせると、「以前はガイドがいたが、今はいない」とのこと。さてどう進めようかと相談していると、「Wさんが適任や」と推薦があった。

本人にお会いして話を進めようと、4月中旬にJR長田駅前の喫茶店で面談をした。

カメラメーカーに勤め、そのうち約10年間はアメリカ、ドイツ、フランスの海外駐在員を務め、リタイア後は自治会長など地域活動、保護司活動や大学講師のかたわら、JICA研修生に長田の地域産業の歴史を講義したり、神戸地域ビジョン委員会の委員長を3期務めたりで、「W」の愛称で呼ばれる地域で知られた人物であることを知った。

10月、11月に現地ガイドの承諾を得た3週間後に、思いがけずWさんの名前を耳にし、今も続く伝統行事のことも知った。

いつものように朝刊を見ながらNHK「マイ朝ラジオ」を聞いていると、アナウンサーの「今日のマイ朝だよりは神戸からです」に続いて、Kさんという女性が「長田の歴史に詳しいWさんから聞いた絵干し会という行事を紹介します」としゃべり始めた。

驚いてWさんにラジオで聞いたことをメールで知らせると、「朝早くから聴いてくれはったんや」と返事があり、「Kさんと2人でインターネットラジオFMわいわいの『長田今昔物語』という番組を担当し、毎週土曜日に彼女とのかけあい放送している。自分がKさんに話した絵干し会についてNHKで紹介することは放送前に聞いていた」ことがわかった。

『長田今昔物語』は長田を中心にした西神戸地域の歴史解説で、ネットで検索すると過去の放送を音源アーカイブで聴くことができる。

絵干し会については6月16日の放送で、鷹取山に近い旧村の長田村、池田村、東尻池村、西尻池村の代表の人々が年に1度「入会地」の絵図を取り出し現場の確認をする行事で、今も営々と続いていて、水源としてのため池が多かった時代、柴しばを刈ったり、薪を採ったり、下草を肥料にした時代の風習などを紹介されていた。

そんな伝統行事が、長田で今も続いていることは驚きだった。

(2018年5月)

ふれまち協議会

小学校区の自治会、小・中学校PTA、子育てコミュニティ推進委員会、防災・福祉コミュニティ、民生委員・児童委員協議会、老人クラブなど29地域団体が構成する花谷ふれまち協議

会は5月に創立15周年を迎えた。

構成団体の連携と住民の交流を促す標語を公募し、標語入りのシンボルマークを新たに制定したほかは、記念式典は行わないこととして、現在行っている諸活動のいっそうの充実をめざすことにした。

「つながってふれあって」の標語とシンボルマークは、活動拠点の地域福祉センター利用人やボランティア・スタッフの投票で決めた。

7月発行の全戸配布広報紙は例年の倍増の8頁特集号として、15年の歩み、センター利用者の声、ふれあい喫茶ケーキの思い出などを掲載した。

広報部ボランティア3人は、うち1人が別のボランティア活動で骨折したにもかかわらず協力して予定どおり発行した。そのチームワークの良さと熱意には頭が下がる。

(2018年7月)

夏祭り

台風12号通過直後なのでテントを3張に減らし、提灯ちよっかんを飾り付け、あてももの、フランクフルト、かき氷、飲み物などを並べて団地自治会の夏祭り開始。青空がのぞく会場に



盆踊り (2016年8月)

来客の笑顔がはじけた。

それが終了30分前に突然の激しい降雨。大人は大慌てで集会所や藤棚の下に駆け込むが、ゆかた姿の子どもたちはびしょぬれになっても笑顔で駆け回っていた。

後片づけは、屋外に出したテーブルと椅子の収納の前に、それらを乾布で拭く作業が増えた。作業をほぼ終えたころ、「東の空を見て！」の声。

思わず手を止めて一斉に見上げると大きな虹がかかっていた。

今まで見たことがないようなその鮮やかさは、ひと手間増えた汗まみれの片づけ作業への褒美のように思えた。

(2018年7月)

長田の歴史、震災、産業を知る

神戸の名勝地を歩く今年の舞台は長田。Wさんがガイドする初回は10月2日10時、阪神の高速長田駅西口に17人が集合。国道2号(旧西国街道)沿いの監物太郎の碑を皮切りに、アディダス開発ビル、菅原すいせん公園・寅さんプレートを経て、鋼材屑リサイクルの屑鉄の匂いをかきながらJR南沿いを南下。増田製粉・兵庫運河支流・梅ヶ香の菅公匂の梅田蹟、宝満寺・真野の継橋、真野まちづくり会館、川重兵庫工場、三井製糖(元の台湾製糖)、兵庫運河・高松橋の順に訪ね、この日のゴールで古墳のなごりを残す念仏山地蔵に着いたのは昼時。周辺から食欲をそそる甘い菓子の香りが漂ってきた。

古墳時代、条里制の時代から開けた長田は「光(太陽)、平坦な土地、豊富な水、人材」の4条件が揃って、明治以降多くの企業が立地し阪神工業地帯を形づくってきた。川重兵庫工場の北隅には2台の新幹線「こだま」の車両が置いてあり、懐かしさにじっと見入った。乗り物好きは年齢に関係なさそうだ。

高松橋に立つと、兵庫運河が広がり東方の水の上に船に積まれた真新しい流線形の車輛が見えた。Wさんの「この景色は絶景でしょう」の声に、水面から目を上げると工場群、街並み。その奥に六甲山系が連なっていた。目、耳、鼻を存分に働かせた7千歩は、心身をリフレッシュさせる2時間余だった。

(「県友会ホームページ」2018年10月)

新生・長田の息吹を訪ねる

ガイドは第1回に続いてWさん。11月6日10時、JR新長田駅に21人が参集。

駅南広場には長田にちなんだ「こて」と「靴」のモニュメントがある。Wさんの説明で初めて知った。JR高架の高さが同駅から西へ徐々に低くなっていることも。「鉄人28号モニュメント」前で集合写真撮影。南下し国道2号地下の「震災復興パネル」神戸の壁の椅子を眺めて、その南東のビル2階の「神戸映画資料館」ロビーで放映の「1930年代の神戸」を見る。この後、震災前まで大正筋在住で現在はひょうご県友会阪神支部会員のMさんの配慮で「大正筋」商店街東の「吾妻蒲鉾店」の天ぷらをご馳走になった。ここから歩を西へとり「昭和筋」西端を南下し、コスプレのメッカともされる「ふたば学舎」へ。

さらに南下。境内に「源平古戦場」の看板があり湯川秀樹やアインシュタインが訪れた「海泉

寺」、その南には当地出身の昭和期俳優の澤田清のほか大河内傳次郎、片岡千恵蔵らの玉垣がある「駒林神社」へ。同神社の南には「いかなごのくぎ煮発祥地」の碑。すぐ前は数十隻の漁船が係留する長田港だ。海沿いには芸術家のアトリエもある。

次に、北東の野瀬病院7階ベランダへ。北隣は建築工事中の新長田県市合同庁舎へ。

北奥には高取山、東には摩耶山、南東にはノエビアスタジアム神戸、眼下には長田の街並みが連なる。「六間道」商店街を進み、その北の「丸五市場」を眺め、ふれあい小路を経て週1日開店の喫茶店前を通ってこの日のゴールの「City gallery 2320」へ。古民家の1、2階で展示中のガラス工芸作品を見学した。

かつて「西の新開地」と言われた長田には、いま芸術家が住み、ダンスボックス、シェアハウス、大学サテライトなどが若者の活動を促し、来年完成で千人以上の県市職員が働く合同庁舎と相まって、往時の賑わいを取り戻そうとする新しい息吹が感じられた。

道すがら参加の皆さんからは「今まで見落としていた。灯台下暗しだった」「週1日、喫茶店のご馳走はおしゃべりでしょう」のほか、「長田の町歩きは来年も開催を！」との嬉しい感想も聞いた。
 (「県友会ホームページ」2018年11月)

女性合唱団

神戸文化ホールの幕が開いた。揃いのステージ衣装の24人がライトに浮かび上がった。演奏会に招待してくれた団代表のSさんらが美しいハーモニーで歌い始めた。

Sさんは老人クラブ会報やまちづくり協議会広報紙原稿をパソコンで仕上げているが、この日の舞台の彼女らはまるで別人たちのようでもぶしかった。

ソプラノ、メゾソプラノ、アルトの合唱20曲ほどに癒やされて、時間はまたたく間に過ぎた。歌うことが大好きな主婦たちがコーラスグループを結成したのは30数年前。演奏会に備えて今年も懸命に練習に励んだと聞いた。そんな彼女たちの歌声だからこそ聴衆の心を揺り動かしたに違いない。
 (2018年12月)

* 団地住民有志で構成する老人クラブは来年2月で結成5年目を迎える。会員への情報提供と交流促進を狙いとして広報紙を毎月発行している。まちづくり協議会も小学校区の全戸配布広報紙を年3回発行している。

これらの広報紙発行を中心的に担ったのがSさん。彼女が当地域の婦人たちが結成したコーラスグループの世話役をしていることは聞いていたが、今年初めて招待状をもらい演奏会に出かけた。演奏会は毎年行っており、この年は神戸文化ホール中ホールに500人ほどを集めて開催した。

住む地域の歴史

板宿の「百耕資料館」を訪ねた。見覚えのある男性が秋季企画展「江戸時代の板宿の風景をさぐる」の展示に見入っている。横に立つと同じ住宅に住むM氏だった。互いに会釈して主任研

究員の解説を聞いた。

帰りに出口で待ち受けた同氏に誘われて喫茶店で一休み。

「いつから来館されているのですか」

「10年ほど前から」

「私は5年前から春と秋の年2回、主任研究員の解説日に」

姫路から須磨ニュータウンに転居して38年。リタイア後、自分が骨を埋める地域の歴史を学んでいる。

知人が私と同じ目的で同館を訪ねていたとは。その出会いに驚き、ずっと笑顔だった。

〔花時計〕2019年1月）

* 同じ住宅に住む10歳ほど年上のM氏を知ったのは、同氏が住宅管理組合理事長に就任されていた数年前のこと。

団地住民の皆さんを対象にした中落合シニアクラブ設立の意向調査実施に際して、協力していただいた方である。

以来、顔を合わせるとお互いに挨拶を交わす程度だった。須磨区役所主催の「須磨の歴史講演会」で聞いた講師が同館主任研究員で、同氏の解説日は企画展期間中に2日あって、その1日を選んで5年間通っている。

聞き入っている中高年は毎回20人前後いるが、同じ住宅に住むM氏に出会ったのはこの日が初めてだった。

新開地・喜楽館

2018年7月、神戸新開地に演芸場がオープンした。

神戸では42年ぶりの本格的な演芸場（210席）の復活となり、「神戸新開地・喜楽館」と命名された。

主に上方落語の定席として使用されるが、講談、浪曲、漫才などの大衆芸能はもちろんのこと音楽、ダンスも楽しめる場である。今後喜楽館が繁盛すれば、かつて「東の浅草、西の新開地」と謳われたまちの賑わいが戻り、大衆文化が復活するきっかけになるのではないかと期待されている。このため兵庫県と神戸市も喜楽館の建設・運営を支援している。

ひょうご県友会神戸支部としても、会員の皆様が楽しめる機会を提供するとともに、喜楽館を少しでも盛り上げるため新規事業として取り組んでいる。今年度は1月19日と3月16日にそれぞれ10人が鑑賞した。土曜日ということもあってほぼ満席の中、定席小屋ならではの臨場感と生の落語のおもしろさを堪能できたという感想を多くの方々からいただいた。

新開地には、たぐさんの飲食店、演劇やダンス、映画を上演する神戸アートビレッジセンター、名作を選んで上映する映画館、大衆演劇場などがあり、毎年5月に大規模な音楽祭も開催されている。少し北へ足をのばせば湊川新鮮市場（西日本最大級の市場）もある。

喜楽館での落語鑑賞がきっかけになって、新開地の魅力を再発見できるに違いありません。

〔県友会ホームページ〕2019年3月）



年末防災・防犯パトロール（地福センター出発前）

余。その代表になって3年目を迎えた。活動の担い手も増えつつあり、活動の充実を実感している。

しかし、発災が確実視されている南海トラフ巨大地震等による電気・ガス・水道の一時供給停止でトイレ使用不可、エレベーター休止などで、高層住宅住民などがパニックに陥り、ふれまち協議会活動の停滞が十分に想定される。

それにもかかわらず、地域の3800戸すべてが鉄筋造りで、ハザードマップで土砂崩れ危険箇所は1か所のみ、阪神・淡路大震災や昨年の台風・豪雨等でも大きな被害がなかったため、各自治会・管理組合の自主防災活動は総じて低調で、ふれまちの防災福祉コミュニティが行う防災訓練などへの参加者も一部にとどまっている。

そこで、昨年度に市の支援を得て、自治会・管理組合はもとより、老人クラブ、小中学校PTA、民生委員・児童委員、避難所になる小・中学校のほか、児童館、あんしんすこやか

自主防災組織の整備

地域の団体やボランティアの協力で福祉・交流活動を行うふれまち協議会にかかわって7年

コーラス発表会

須磨ニュータウンの九つのコーラスグループが駅近くで開いた第40回発表会を聴きに出かけた。出演は女性のみが7グループ、男女、男性のみが各1グループ。300人を超える出演者、観客は年配者が多く、その約8割が女性だった。そんな会場で一番盛り上がったのは、男声合唱団がアカペラで4曲披露した3曲目「君といつまでも」だった。

曲の合間の台詞で団員一人が加山雄三のように「幸せだなあ」と甘くささやき始めると会場の女性が一齐に「わあー」と歓声をあげ、最後の「死ぬまで君を離さないぞ いいだろ」でその声がさらに大きくなった。

初回からの出演者は40年前からになるが、とても年齢を感じさせない美声だった。

（2019年7月）

* コーラス発表会は須磨ニュータウン内のコーラスグループが実行委員会を結成し、須磨区役所の支援を得て須磨パティオ健康館で毎年開催し、今年の7月9日で40回目を迎えた。開始時20代、30代だった出演者も60代、70代になり、ステージに上がる手すりを区役所が整備してくれたと謝辞を述べていた。各グループとも揃いのステージ衣装で舞台上立ち、日頃の練習の成果で年齢を感じさせない美しいハーモニーを聴かせてくれた。

センター、区役所、消防署に参加を求めて、自治会・管理組合の「災害初動時対応計画」づくりに着手。

計画は、①安否不明者の確認、②自力での避難困難者の避難支援、③被災者の救出や負傷者への応急手当、④初期消火活動、⑤被害状況や安否確認情報の収集・伝達、⑥防コミ本部との連携を内容とする。

これらの取組みを行う自治会・管理組合の自主防災組織整備と住民・家族の災害への備えをまとめた「花谷地域防災ガイド（地域おたすけガイド）」を3月末に作成し、全戸配布広報紙、ホームページとふれまち協議会総会での区担当係長による解説等で周知に努めている。

また、防コミ本部強化のため、本年度拡充された県民交流広場事業補助金で防災用大型テントも購入した。

今後もふれまちの福祉・交流活動の継続的实施をめざして、防災情報伝達訓練、防災パトロール、小学校防災学習支援、防災訓練の実施、防コミと自治会・管理組合との連携強化で自主防災組織整備に努めたい。

〔絆〕2019年10月号）

珪化木

住む地がどんなところだったのかはずっと関心事で興味があった。

須磨の歴史を綴った本を読んでいると、このあたりには当時の痕跡を示す木化石とも呼ばれる「珪化木」が残されていることを知った。

「珪化木」とは、古代に何らかの原因で土砂等に埋もれた樹木が、膨大な年月をかけ地層からかかる圧力により木の細胞組織の中にケイ素と酸素、水素との化合物であるケイ酸を含有した地下水が入り込むことよって、樹木が原型を変えずに二酸化ケイ素（シリカ）という物質に変化することで、石英や水晶などと同様に固くなり、化石化したものという。

気にかけていると、訪ねた須磨離宮公園の梅園の北の道沿いに珪化木が移設されていた。そんな時にJ'S（日本総合住生活株式会社）のホームページで調べると、「落合中央公園の南東にある」と書かれていた。

同公園は団地の西に隣接し、週に何度も歩いている。

探すと、南東の交差点傍の植え込みにあった。

だが表示などがなく、これでは、よほど興味を持つ人以外にはわからないだろう。

簡単な解説をつけた表示があればよい。

〔かわら版〕2019年11月）

ウォーキングのマナー

新型コロナウイルス感染防止で外出を控えてなまった体をほぐそうと、1人で名谷駅前の自宅からしあわせの村まで片道1時間かけて徒歩で往復した。このコースは何度も歩いたが、この日出会った人がこれまでで最も多かった。

赤ん坊あるいは犬を連れた人、夫婦あるいは中学生の2人連れ、障害を持つ方数人と引率の人、それ以外は私のように1人だった。

そのほとんどの人がマスクをかけ、出会う数メートル手前でどちらからともなく会釈し、行き違いにどちらからともなくお互いに道端の左右に寄る。普段なら「こんにちは」、「お先です」などと声掛けし合っているのに、コロナ禍で黙って歩くマナーがいつの間にかできあがり、それを皆が守っていた。
(2020年4月)

* 老人クラブ活動の「里山・歴史ウォーク」で年間7回ほどと、在職時のOB・OG組織の街歩きで数回歩いていた。不要不急の外出は控えつつ、これらの活動休止中も運動不足解消のために1人でひたすら歩くことを心がけていた。

一件落着

ふれまち協議会の主拠点・市立地域福祉センターが、新型コロナウイルスの影響で休館になった。

地域で福祉交流活動を行う協議会は部長会と、団体代表を含めた役員会を毎月開催している。10人集合の部長会は3密になるので開催を避けたい。

これを機に無料通信アプリ「LINE」(ライン)で情報交換を始めた。

「役員会資料はどう作りますか?」「各部長にメールで提出お願い」という質問や連絡が流れる。メンバー間での質問のたびに「承知しました」や「了解」と返信の着信音が鳴り続ける。困っていると、別件でHさんが文末に「既読、スルーで」と書いた。

設定を変えずに一件落着になった。

(「花時計」2020年5月)

* ずっとガラケーだった私に妻がスマホを勧めた。買って以降もしばらくはもっぱらメールと電話にしか使っていなかった。

そんな私にまちづくり協議会の仲間が「スマホデビューですか。ラインを使えば便利ですよ」と言われるままにラインを設定してもらった。

その後もラインは娘とのやりとり程度だった。それがコロナ問題を機にラインの機能を部分的ではあるがフル活用している。

39年前の記憶

4月27日付毎日新聞で紹介されていた大丸須磨店のウォールアート「80年代の神戸」2作品を見学した。ひとつは同店の1980年開業を祝って屋上にアドバルーンが上がるイラスト画。もう1点は1981年の海上都市完成を祝う神戸ポートピア博覧会の画で、パビリオンが並び大観覧車の南には海が広がる。

作品に見入っていると、姫路から名古屋に転居してきた81年春のことがよみがえってきた。3月末に名古屋駅東の分譲住宅を購入したが、私は4月から東京への転勤となって新居暮らしは妻と息子、娘だけになった。

5月の連休に単身赴任先から帰宅して新居で初めて横になった畳の感触と、家族揃って出か

けた「ポトピア81」での妻と子どもたちの笑顔は今も忘れられない。

〔花時計〕2020年5月〕

* 青空に上がるアドバルーンとポトピア81会場南の海の青さが39年前の記憶を鮮明によみがえらせた。

勤務先に近いからと、1981年3月末に名谷駅東の分譲共同住宅を購入。長男は4歳、長女は2歳だった。後に埋立地に整備された神戸医療産業都市や神戸空港はまだない。

山頂の花

この日のウォーキングは花探しと決めて出発。

正門塀沿いにペチュニアが咲き誇る多井畑小学校、手入れされたポーチュラカなどの友が丘西公園を西に進む。

ポンポン山頂付近に桜草、ローズマリー、都忘れ、スノウフレックなど20種類以上の花が植えられていた。あずまやで尋ねると地域の人が植えたらしい。開花時期が春から初夏までなどで、残念ながらこの日は花に会うことはできなかった。

花の片隅には暑さに負けるなよと励ますように水を入れたペットボトルが6本置かれていた。訪れる楽しみが増えた。
(2020年6月)

* 何度か訪れたポンポン山の山頂に花が植えられていることに、この日初めて気づいた。花の傍には花の名を書いた小さなプレートが立てられていて、その大半が初めて名前を知る花だった。

在宅勤務で地元を目を

5月27日の毎日新聞記事によると、日立製作所は5月26日、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、従業員の新しい働き方として来年4月から在宅勤務を標準とする制度を導入すると発表した。

このように企業などで在宅勤務が広がり、それによって増えた在宅時間を地域の子どもや高齢者のために活用する人が増えることを期待したい。

全国的に少子高齢化が進み、自治会や婦人会、子ども会、防災・防犯団体などが担い手不足に苦慮するケースが増えている。

阪神・淡路大震災などを機に企業や自治体でボランティア休暇制度が導入されることになったが、地域団体の現状は人手が十分とはいえず、リーダーが活動できなくなると休止状態に陥る団体も少なくない。

在宅勤務のひろがりをつきかけに地元の街の実情に目を向け、持てる知識・技能などを地域の絆の強化や環境改善につながる活動にぜひ生かしてもらいたい。

(毎日新聞「みんなの広場」2020年6月8日)

コロナ禍における地域団体の情報共有

リタイア後からふれまち協議会、民生委員・児童委員協議会（以下、民児協）と老人クラブに所属して地域活動に携わり、今年で8年になる。このたびの新型コロナウイルス禍における地域団体の役員、メンバー間等の情報伝達やその共有について振り返ると、スムーズにできたことがある一方で解決すべき課題も浮かび上がってきた。

ふれまち協議会部長会、民児協のそれぞれで、メンバー間の情報伝達・共有が比較的円滑に行えたのは無料通信アプリ「LINE」（ライン）が使えたからだ。

ふれまち協議会では、毎月第3土曜日に市立地域福祉センターで部長会、その後には地域団体の代表等を加えた役員会を開催している。

しかし、3月3日から5月末まで同センターが休館となり、総会までに作成すべき事業報告、決算、事業計画案、予算案の、一堂に会しての打合せが困難になった。

そんな中で、部長会メンバー全員がLINEのやりとりでほぼ平時と変わらず情報伝達と共有が図れた。頻繁に鳴る着信音が気になっていると、メールの文末を「既読、スルーで」にしておけば、設定を変えずに無音になることも知った。

民児協においても、LINEにより「特別定額給付金詐欺」「新型コロナウイルス感染症に便乗した送りつけ商法」のポスター掲示、チラシの各戸配布がスムーズに行えた。

一方、ふれまちの役員会は開催せず書面開催と手紙に、住民にはホームページ、ポスターなどでの情報発信にそれぞれとどまっておき、今後はLINEの活用、ホームページの創意工夫、掲示板の活用などの改善策が必要である。

とりわけ課題が最も浮き彫りになったのが老人クラブである。3密を避けるために集会所での茶話会も行えず、一人暮らしの高齢者などは「誰とも話さない日もある」状況で、フレイル予防のためにも運動奨励の情報伝達の工夫が必要である。

「地域での継続的な福祉・交流活動は、平時からの防災活動への備えあればこそ」と情報伝達・共有の充実をめざしてきたが、感染症という目に見えない敵に立ち向かうには、各地域団体も情報機器を活用した伝達・共有の術を身につけておく必要性を痛感している。

（絆）（2020年6月号）

海を渡る蝶

須磨区のポンポン山で、よく登ってくるという人に「羽を広げて10センチほどのアサギマダラという蝶をご存知か。春に南方から飛来して秋に南下する際に、この山のフジバカマで羽を休めるらしい」と尋ねた。

「その蝶のことは知らないが、フジバカマは去年この辺りに植えていた」と、あずまやの西前方を指さした。

お礼を言って「上昇気流に乗って1日に100キロも飛び、九州、四国、淡路島あたりを経て裏磐梯などで夏を過ごし、秋に南方に戻る。その飛行距離は数千キロにも達するらしい」と説

明すると、「ぜひ会ってみたい」と興味を示した。
 ポンポン山やその北西の高塚山で、羽を休めて栄養補給するアサギマダラとの今秋の出会いを心待ちにしている。
 (2020年7月)

* 5、6年前に学園都市の高塚山の案内板で、この山に「アサギマダラ」という蝶が訪れることを知った。今年1月下旬にポンポン山（須磨区、土池公園の東）のあずまやでアサギマダラの名を再び目にして、ぜひ出会いたいと、秋の七草のひとつのフジバカマの咲く場所を探していた。
 そんな折、9月中旬の毎日新聞に「アサギマダラの乱舞が見られる」との記事が載り、須磨離宮公園内の東門近くにあるバタフライガーデンを拠点に活動する「須磨離宮公園チョウの会」が紹介されていた。その代表者に電話で尋ねると「10月の好天で風が穏やかな日の午前ならば、離宮公園で飛来するアサギマダラを見ることができると丁寧教えていただいた。
 ぜひこの目で確かめたい。」

夕日

ボランティア活動からの夕刻の帰路、雨あがりの高層住宅を抜けて西方が見通せる歩道橋に立った。地下鉄駅の北の低空に今まで見たことのない霧のような雲が浮かんでいた。歩を止め

てその奥に目をやると、西空を真っ赤に染めていままさに沈もうとする夕日だった。数分間ながめ続けた。

その数日後、里山・歴史ウォークの帰路にこの話をすると、同じ住宅の東端に住む仲間の1人が「自宅の東の出窓から道路を隔てた東落合中学校体育館の窓に映ったその夕日を自分も見た」と言う。

同じ夕日を見て「思わず見入った」という仲間との共通体験に驚いた。
 (2020年10月)

* 10月12日の夕刻のこと。雨があがって雲がたれこめ薄暗くなり始めたころだった。夕日を見たのは肉眼と窓越しの反射と違ったが、同じ夕日に心が動いたことに驚いた。

北須磨の見どころ

須磨は源氏物語や平家物語の舞台や明治期からの別荘地などで、とかく南部に目が向けられがちだが、私たちが住む北部や周辺にも絶景地や歴史ポイントがある。

住宅を北へ徒歩30分の北落合配水場からは、明石海峡大橋、淡路島、大阪湾や瀬戸内海が一望できる。太山寺の東の伊川沿いには修行者が刻んだとされる不動明王立像（摩崖仏）があり、一見に値する。

また、配水場から東方の東白川台を抜けて北へ十数分ほどの高御座山の夫婦岩（東の雄高座、西の雌高座）もぜひ訪ねたい。

西方の転法輪寺は県下有数の原生林を誇り7月に蓮酒を振舞う蓮祭が、また東方の車大歳神社では1月に重要無形民俗文化財の翁能おきなが行われる。

南方では、よこおみち森もりの会が世話している横尾山「野路菊の丘」が紅葉と相まって色鮮やかだ。その東は炭焼釜の跡で、隣には3枚の青いハンモックが吊るさ
れている。

ハンモックに横たわって、木洩れ日を浴び風を感じて鳥のさえずりを聞くのは至福のひと時だ。

〔かわら版〕(2020年12月号)

ポインセチア

ふれまち協議会の一人暮らし高齢者食事は、コロナ対策をして12月に2日に分けて10か月ぶりに再開した。

だが、その間に以前は一人で参加していた数人は送迎者が必要になった。

終えて地域福祉センターで迎えを待つ人たちは、落ち着かないのか幾度も腰をあげて帰宅しようとする。そのたびにマスク越しに「もうすぐ迎えが来られるから」と話し相手になった。数人のコロナ禍による心身の衰えの加速を実感した。

休止中は誕生月の花束贈呈ができなかったので、対象者全員に鉢植えのポインセチアを贈ることにした。

食事会終了後に当日の欠席者に配達すると、「室内がいつぺんに華やかになった」との嬉しい言葉がもたらえた。
(2020年12月)

* 花谷ふれまち協議会は、民生委員の協力を得て70歳以上の一人暮らし高齢者と75歳以上の高齢夫婦を対象に参加希望者を募って食事会を年間10回開催してきた。

地域の女性ボランティアがデザートを含めたメニューづくりから食材の調達、調理、盛り付けまで行う。会場設営、配膳、飲物の準備、花の購入は男性ボランティアが行う。

コロナ禍で休止していた食事会の12月1、2日再開に際しては、以前の分担に加えて、会場のアクリル板設置、消毒、参加者の検温などのコロナ対策をボランティア・スタッフ総がかりで行った。

拍子木

ふれまち協議会の夜回りは、新型コロナ感染防止のため例年のようにハンドマイクでの「火の用心！」の呼びかけに合わせたの全員の復唱ができない。

12月25、26の両日、腕に蛍光テープを巻き、懐中電灯、赤色誘導灯を持ち、拍子木を叩いて



里山・歴史ウオーク (野路菊の丘)

回ることにした。

祖父母や親に連れられた子ども7、8人を含めて25人を2班に分けて実施。各班の大人1人と子ども2人が拍子木を持ち一定の間隔で合わせて叩くよう求めた。

だが、子どもたちは思い思いに叩くので音が揃わない。

2日目に地域の人からの「ご苦労さま」の声かけに、ようやく3人の拍子木が「カチ！カチ！」と揃って団地にこだました。足取りが軽くなり、ワンチームの夜回りになった。

〔花時計〕2021年1月

* 例年の夜回りは子どもたちの「火の用心！」「サンマ焼いても家焼くな！」のかけ声のリードで団地2コースを歩く。

初めのうちは躊躇ちゆうちゆうしていた子どもが、気分が良くなってハンドマイクを手放さないこともあった。かけ声の後、拍子木を打つ、一呼吸あつて子どもと大人が復唱する声がコース後半になるにつれて大きくなる。

それが、今年は大声が出せない。参加者が少なくなるのはやむをえない。

そんな中、音が合った拍子木のリズムに引っ張られるように足取りが軽くなった。

第IV部

「エノケンみたいや」



落合っ子フェスタ